

資生堂 デジタルアプリシステムを開発 適切なスキンケア美容法の実践をサポート

【資】 資生堂は、150年を超える歴史の中で培ってきた美容法や感性科学領域の知見と、AIを用いた微細な手の動きを検出する動作認識技術を活用し、美容法の伝授が対面でできないような場所であっても、スマートフォンやタブレット端末などを用いてインタラクティブに顧客の適切な美容法の習得と実践をサポートすることができるデジタルアプリシステム「Beauty AR Navigation」を開発した。

このアプリを用いることにより、顧客は動画やナレーションでわかりやすく適切な美容法を実践・習得することができ、自身が行う美容法に対して定量的な評価を得ることも可能で、長期的な美容法習得のモチベーションを上げることが期待できる。2024年1月9〜12日（現地時間）にアメリカ・ラスベ

発した「軽圧式塗布法」に沿って化粧水・乳液を塗布すると、自己流での手入れに比べ、スキンケア後のうるおいやハリ・弾力に関する効果実感が高まることや、気持ちいポジティブになるなどの心理効果のほか、実際に1ヵ月間美容法を継続することで肌の水分量が改善するといった結果が研究で得られている。

かになった。現在提供されているデジタル体験の利便性に加え、このような生活者の悩み・ニーズにテクノロジーの力で、きめ細やかに応えるサービスの提供を目指し、今回、スマートフォンなどをを用いて顧客の適切な美容法の習得と実践をサポートすることができ、デジタルアプリの開発を進めた。

ガスにて開催された世界最大級のデジタル技術の見本市「CES 2024」にて発表した。

あらゆる体験がデジタル化していく社会の変化を迅速に捉え開発された同アプリを、今後生活者に向けて展開し、いつでも・どこでも使える多様な生活者や環境への対応と、美容行為ならではの満足感や幸福感を両立する、スキンケアの体験を提供していく。

一方、商品の購買に至るまでの情報収集、カウンセリング、購買、その後の使用法の習得や使用後の評価・所感の共有まで、あらゆる化粧品の使用体験が、従来の店頭や人対人で行われていたスタイルから、スマートフォンなどを介して非接触、非対面で行われるデジタル体験に置き換わってきており、生活者の利便性が大きく向上している。そのような中、同社

1872年の創業以来、同社は適切なスキンケア美容法の開発と、美容部員（PBP）によるそれら美容法の伝授に力を入れて取り組んできた。実際、美容法はスキンケアの効果を最大限得るために重要であることが科学的にも明らかになってきており、同社が開

のインタビュー調査によって、「自分自身の化粧品の使用法が正しいのか不安である」「本来期待できる化粧品効果が、誤った使用法によって十分得られていないのではないか」「適切な使用法を知ることさらに美しになりたい」という生活者の悩みやニーズが明らか

テムを開発
 実践をサポート
 培ってきた美容法や感
 きを検出する動作認識
 うな場所であっても、
 ンタラクティブに顧客
 ができるデジタルアプ
 ोन」を開発した。

かにになった。現在提供さ

かって

評価

スコア
 80 100
 美容士さんです

評価結果表示画面

の使用で適切な美容法習得へ

れているデジタル体験の利便性に加え、このような生活者の悩み・ニーズにテクノロジーの力でよりきめ細やかに応えるサービスの提供を目指し、今回、スマートフォンなどを用いて顧客の適切な美容法の習得と実践をサポートすることができるデジタルアプリの開発を進めた。

サポートする。1つ目の機能では、顧客自身が行う美容動作を定した、適切な動作や速度などの動作の伝授

The image shows a woman from the chest up, facing forward. She has dark hair and is wearing a light-colored top. Her hands are positioned on her cheeks, with fingers spread, as if performing a facial massage or skincare routine. There are two callout boxes pointing to her hands: one labeled '実際の手' (Actual hand) pointing to her right hand, and another labeled 'お手本動作を行う仮想の手' (Imagined hand performing the sample action) pointing to her left hand. Above her head is a speech bubble containing Japanese text about navigation voice commands. Below the image is a caption '美容法ナビゲーション画面' (Beauty method navigation screen). At the bottom right, there is a grey arrow pointing upwards with the text '緑り返し' (Return to green).

(ナビゲーション音声)
頬は中心から外側に向
なじませましょう

実際の手

お手本動作を行
う仮想の手

美容法ナビゲーション画面

緑り返し

図) 新たに資生堂が開発したデジタルアプリ「Beauty AR Navigation」の画面イメージ (ナビゲーションは仮想の手を重ねずに点線表示での伝授も可能)

半伊勢
SHIBUYA109 渋谷店で
18歳新成人向けイベントを開催

伊勢半が展開する眉メイク専門ブランド「ヘビローテーション」は、1月8日(月・祝)成人の日に、今年新成人となる18歳を対象に「眉から、大人はじまる『18歳の成人式』 by HEAVY ROTATION」を開催した。

「ヘビローテーション」は、ブランド誕生から15年の歴史を持つ眉メーカー専門ブランドであり、今回、眉メーカーを通じて、より自分を好きにしたり、自信を持ったり、かけをつくりたいと考えイベントを企画した。成人年齢が18歳に引き下げられてから2年目を迎えるが、「18歳の成人式」を実施する自治体は少なく未だ成人式の形が定まっておらず、新成人たちは「大人」になることへの自覚を持つきっかけがないままに自己判断や責任が求められるようになっていく。

「ヘビローテーション」は、その人の意思や思考を表すといわれている眉毛を整えることは大人になるきっかけをつくることができると捉えており、今回、18歳新成人へ成人式の特別な体験を通して、これから大人になっていく背中を押す

はナビゲーションの後、手本の美容動作と顧客の美容動作の手の位置や速度の比較解析を行うことで、顧客の美容動作を定量的に評価し、その結果を提示する。

ユーザーはこれら2つの機能を備えたアプリを自身のスキンケアのタイミングにあわせて継続使用するによって、これまでのオンラインカウンセリングなどに加え、非接触・非対面の環境であってもさらに簡便に、モチベーションを高く維持しながら、適切な美容法を習得することが可能になると考えられる。

今後この技術を同社のビジネスへ早期に応用し、生活者の手元へ届けるとともに、他のデジタル技術についても、その開発と社会実装を加速していく。

とともに1つの節目となるような、大人になることを楽しんでもらえるような機会の提供に取り組んだ。

具体的には、大人になることを象徴する日である「成人の日」に、

18歳を含む10代が集まる象徴的な場所としてSHIBUYA109渋谷店にて18歳新成人と、昨年成人式を実施できなかった19歳に向けてイベントを行った。当日は約60名が来場するなど会場は大いに盛り上がった。

第一部では、イベン



トの開催を記念し、特別ゲストにメークアップアーティスト・モデルとして「何にもとらわれない美」を発信するZutto

i Mattia氏を招きオーブニングセレモニーを行った。また18歳新成人である阿部こは氏も招き「どんな大人を描きたい？」をテーマにしたトークセッションを実

施。来場者からは「最高に楽しい」「Zuttiさんに会えて嬉しい」といった率直な意見が出る場面もあった。

第2部「18歳の成人式」では、メイクアップアーティストによる自分らしい眉メイクをその場で施術するコーナーを設置。眉メイクを行うことでより雰囲気が凛々しくなっ

た自身や友達の姿を目にして「こんなにクールな一面があるなんて知らなかった」「魅力が引き出されていて、自分もそう

なりたい」といった素直なコメントが飛び交った。メーク後にはゲストフットグラファーとしてSNSで話題の葵氏により、従来の成人式の写真に囚われない、自由で等

身大な記念写真撮影が行われた。「18歳の成人の抱負」では「華の女子大生を楽しむ」「仕事を頑張って自立した大人にな

りたい」「たくさんの人に笑顔を届けられるような大人になりたい」など大学生生活や大人としての目標コメントが多くあがり、等身大の前向きな姿が垣間見えた。

また、2029年に迎える創業100周年に向けて定めた「サスティナビリティ方針」では、私と

社会の可能性を信じられ
る、つながりであふれる
社会を目指し、2029
年までのSDGsの目標
数値を設定した。

協定の締結をきっかけ
に、青森県民が自らの主

ポーラ
青森県との包括連携協定を締結

ポーラは、青森県と、健康で豊かに暮らせる環境づくりと地域活性を目指した連携と協働に関する協定を締結した。

ポーは、青森県と、健康で豊かに暮らせる環境づくりと地域活性を目指した連携と協働に関する協定を締結した。

を、県民とともに築いていく。

青森県では現在約28の
ポーラショップ、20〜90
代までの約2668人のビ
ューティーディレクター
がビジネスリーダーとし
て活躍しているが、青森
県とポーラが双方の資源
を有効に活用した協働の
取り組みを推進すること
により、地域の活性化、
県民サービスの向上につ
なげていく。

ポーラは、全社の行動
指針として「We Care
re More. 世界を
変える、心づかいを。」
と掲げ、美容と健康とい
う枠組みにとらわれず、
人・社会・地球、そのす
べてをケアするために、一
人ひとりが何ができるか
を協定では、就職支援、
女性活躍支援、高齢者の
健康づくり、出会い・結
婚支援、県産品等の周知、
SDGs、その他の活動
の7項目を掲げ、取り組
みを進めていく。